



二月の俳句

(2 0 2 1 / 0 2)



た べ も の 俳 句	モ ー ロ ク 俳 句	歳 時 記 俳 句	目 次
10 〈	6 〈	1 〈	

旧暦では、2月4日前後の「立春」が1年の始まりです。そのため、立春の前日を「季節を分ける日」という意味の「節分」と称し、豆まきをして一年の穢れ（けがれ）をはらい清める風習が生まれました。

2月はまだ冬の真っ盛り。寒い日が続きますが、立春を迎え暦の上では春です。立春以降に初めて吹く強い南風を「春一番」と呼びます。

(宇佐美保幸)メール・zeirisi777usami@aol.com

毎日の俳句は次のブログに

鶯鳴とげぬき徒然俳句

<https://blog-haiku.777usami.com>

芸舞妓無病息災節分祭

豆を撒く家内安全鬼がいて

飽きもせずあきれながらも豆をまき

鬼がいてやはり日本の福の豆

春立つや山手線は定時なり

春浅しホットコーヒー舌を焼く

春が来る雲もハンカチ飛びはじめ

人嫌いそれも個性だ春遅し

ああ立春沢永吉ロックかな

図書館で過ごす休日あたたかし

春めきてあさの新聞睡魔かな

春めきてただそれだけの日々であり

春めきてパソコン操作睡魔かな

春めくや女のまつげ伸びにけり

「三丁目の夕日」昭和は遠く薄氷や



早春の日ざしが汝に我全身
早春や目的もなく乗る都電
早春の海を眺めてある不安
いざやいざ庭の鉢植え春まじか
春を待つ生きているから春を待つ

庭の鉢見てよ見てよと芽吹きかな
もういいかつぶやく春の石露が

節分草鬼はいずこと探すかな
だんだんと日差し集めて節分草

目立ちがり白き梅より紅き梅
コップ酒表面張力梅一輪
薄紅梅降圧剤など効きもせず
団地内そこらの梅の梅見かな
梅を観て天神下の居酒屋で
血縁はあれどなけれど梅の花



頑張れど無位無冠なり梅ひらく
梅が咲く真相すでに意味がなく

純潔を守って孤高白椿
椿落ち寺の平穩かき乱す
風もなく雲ひとつなく落椿

如月の満月ベッド照らしけり
脱ぎ捨てしパジャマに未練二月かな
のど飴をバッグに常備二月かな
成就せぬ願いを立てて二月かな

暦など根拠なきもの寒の木瓜
日々ごとに皮ぬぎ捨てて猫柳
猫柳兄弟皆とルームシェア

黄梅に香りのなきを憂いたり
黄梅や明るく笑い今年また



まんさくや見れば見るだけねじくれて
まんさくや好きも嫌いもちぢれ咲く

赤ワイン静かな夜のシクラメン
シクラメン拍手喝采欲しくなり
奔放に花を咲かせてシクラメン

地を這って空に向かっていぬふぐり
人並みであること大事いぬふぐり
チヤンスきて急がば回れいぬふぐり
いぬふぐりもう少しもう少しと日差し追う
人間はまさに小さき野焼きかな

いらいらとただくよくよと下萌ゆる
下萌の一步一步と始めたる
草萌えて我が庭もまた生きている
鳥媒花小さく主張藪椿
クロツカス背伸び懸命光浴び



雛菊の健康寿命いくつかな
木の芽張る見つけてうれしはじめだけ

恨みなどどこかに捨てて草青む
だんだんと計画増える日脚伸び
新しいアウターおろし日脚伸び

ポケモンをスマホで確保済返る
ロボットに介護をされて済返る
顔認証パソコン起動済返る
うそ寒や地震速報けたたまし

春時雨巢鴨地蔵も明るさに
距離感はずかしきもの春時雨
誰もまたつきとおす嘘春の雨
待てばくる河津桜はふくふくと
冬眠にそろそろ飽きて二月尽
二月尽春と冬の紙一重



モーロク俳句

猫柳モーロクすれば空回り
融通の効かぬモーロク猫柳

モーロクし節分の豆食べ過ぎて
モーロクし耳鳴りばかり豆を撒く

関節が軋みモーロク寒明ける
モーロクし気持ち半分寒明ける
モーロクし足元怪し春立てり
モーロクし未来図不明春が来る

モーロクし失言欠伸水温む
モーロクし愛想が大事水温む
モーロクし人間らしく寒々と
モーロクしよろめいている二月です



如月はモロクすれば不自由なり
臘梅の色を忘れしモロクす
猫撫でてモロクすれば露の臺

みんな夢モロクすれど雪割草
モロクしされど頑張り日脚のぶ

モロクしお茶苦き日の旧正月
モロクし早春の紙で指を切る
生きている故にモロクまた春が

モロクし逃げ道探すヒヤシンス
ヒヤシンス興味なくしてモロクす

モロクし四角四面に梅が咲く
モロクし貧乏揺すり窓に梅
日も風もいずれモロク梅二月
モロクし寒さを抱え梅の花



梅三分三途の川やモーロクし

モーロクし踏み入る恐れ末黒野

モーロクし脳は陥没いぬふぐり

モーロクし明日は青空犬ふぐり

モーロクし受け皿もなくいぬふぐり

モーロクし老いらくの恋犬ふぐり

目刺焼き食べる贅沢モーロクや

モーロクしメザシの味になりにつけり

下萌もモーロクすれば哀しみに

モーロクし滅入るほどにも草青み

モーロクしまるくやさしく雨水なる

モーロクしをりをり揺れる春の日も

モーロクし居睡りあさき春日かな



モーロクし春の中より世迷い言

薄氷や眠れば進むモーロクが
モーロクし足ることを知る春氷

冴返るモーロクすれば気の緩み
モーロクしつまらぬ日々を冴返る

モーロクし不安となりし余寒あり
モーロクし言葉の翳る余寒なり

モーロクし脳に迂回路座禅草
モーロクし少しふやけて春の月

モーロクし頬杖をついて遅日かな
モーロクし海苔あぶるごと縮みけり

モーロクし心の壁に春の雨



たべもの俳句

二月には海老にら炒め気と精を

簡単酢野菜のマリネ春隣

ビーフカレーしつかり煮込み春隣
台湾風大根スープ春隣

立春は福を巻き込む春餅で
味噌もつ煮キムチも加え寒明け

うつぼ干すこれが美味とは春浅く
きんつばの角を数えて冴え返る

蜆汁身を残さず食べる昭和人
それぞれに小さな夢も蜆汁



浅き春レトルトお粥に梅干しを
春浅しクリームパスタしつとりと

露の薑地酒少々夕餉かな

ほろ苦き大人となつて露の薑

パツク入り露の薑にも季節あり

露味噌の味が味を愛でて吟醸酒

露味噌や老もゆたかに吟醸酒

ばっけ味噌あれば納得朝ご飯

ばっけ味噌信州の味春來たる

浅き春熱きもんじゃで舌を焼き

二月には岡山黄ニラ中華街

根っこまでとことん食べるセリ鍋よ

春浅くホッキ貝カレー苦小牧

ほうれん草ポパイも食べるカレーかな



ほほざしは残虐行為リベラル派
頬刺や呼吸器つける人もいて

春めいててんや天井持ち帰り
春菊の苦みを生かすサラダかな
春菊や苦み薄れて人の良さ

春浅くレシピいらすの親子丼
親子丼半熟加減それがコツ

甘納豆三寒四温お茶請けに
春めいてチヨレギサラダをわさび菜で
春が来て島の泡盛島らつきよう

伊予柑の出番となつてデパ地下に
伊予柑をサラダに仕立てみずみずし

菜の花はほろ苦さこそおひたしに



満月に食べる熱々元宵団子
冷凍のチャーハンチンし花すみれ

二月尽ハンバーガーで昼すます
納豆を何分混ぜて二月尽
具沢山味噌汁うまし二月尽



